

令和3年第2回江別市総合教育会議

1 日時 令和3年11月11日(木) 午前10時00分～午後11時20分

2 場所 公室

3 出席者

(構成員) 江別市長 三好 昇
江別市教育委員会
教育長 黒川 淳司
委員 支部 英孝
委員 橋本 幸子
委員 林 大輔
委員 須田 壽美江

(学校教育支援室)

教育部学校教育支援室長 佐藤 学
教育部学校教育支援室学校教育課長 川口 直也
教育部学校教育支援室教育支援課長 清水 さおり

(生涯学習課)

教育部生涯学習課長 中島 桂一

(情報図書館)

教育部情報図書館長 山本 則行

(事務局)

教育部長 西田 昌平
教育部総務課長 山崎 浩克
教育部総務課総務係長 嶋中 健一
教育部総務課総務係主査 工藤 雅和

4 議題

- (1) 全国学力・学習状況調査の結果について
- (2) 令和4年度教育施策及び予算に関する意見交換について
- (3) 学校における新型コロナウイルス感染症対策について
- (4) 江別市におけるいじめ・不登校の状況について
- (5) ICT活用に向けた学習機会の確保について

三好市長	<p>定刻になりましたので、ただいまから、令和3年第2回江別市総合教育会議を開会いたします。</p> <p>本日の議題は、「全国学力・学習状況調査の結果について」及び「令和4年度教育施策及び予算に関する意見交換について」、「学校における新型コロナウイルス感染症対策について」、「江別市におけるいじめ・不登校の状況について」そして「ICT活用に向けた学習機会の確保について」の5件でございます。</p> <p>冒頭、私からお礼を申し上げたいと思います。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対応というのは、時期と共にどんどん変わってきております。もう1年8か月前になるでしょうか、江別市で初めて感染者が出て、私のところに報告がございました。その時の対処方法としては、マスクが有効であるというような話があり、また一方で、ただの風邪症状と変わりがないので問題がないというような話も聞こえてきていました。しかしながら、その後は、世界中で一気に新型コロナウイルスがまん延いたしまして、死亡者も出る状況となりました。その際にも、新型コロナウイルスに関する正しい知識が必要だろうということで、当時の新型コロナウイルスに関する知見を踏まえた通知が、教育委員会から子供たちや家庭に対して出されております。</p> <p>今回、ワクチンに関連するリーフレットが発行されました。</p> <p>新型コロナウイルス感染症対策としてワクチンが開発されてきて、12歳以上の子供たちにワクチンの接種が可能となりましたが、受験を控えている子供たちが接種しようとする、2回のワクチン接種が完了するまでに1か月掛けて接種しなければならないということが気になっておりました。そのため、しっかりとスケジュールを組んだ上でワクチン接種を行わなければ、副反応の問題を含めたいろいろな問題が出てくる可能性がありますので、受験を控えた子供たちの場合、受験日を意識して計画的に接種をする必要があります。</p> <p>本日、お手元に配付されているのが今回発行していただいたリーフレットですが、非常に良いタイミングで発行していただいたと思っています。内容については、後ほど事務局からも説明があるとは思いますが、こちらを配付した後の保護者からの反応は、時期的にぴったりで良かったというお褒めの言葉でございました。しかも、家庭向けと子供向けの2種類を作成しており、いずれも内容が分かりやすいという話もいただきました。改めて皆様には感謝を申し上げたいと思います。</p> <p>ワクチンに関しては、これから3回目の接種の問題が出てきますので、市民の関心はまだまだ高い状況が続くと思っております。決してワクチン接種を勧奨するわけではございませんが、教育委員会には、引き続き適時に正しい情報を提供していただき、接種を希望する人には正しい情報の認識を持っていただいた上で接種に臨んでいただくことが重要だと考えておりますので、引き続きよろしく願いいたします。</p> <p>それでは、次第に基づきまして、さっそく議題に入りたいと思います。</p> <p>はじめに（1）全国学力・学習状況調査の結果についてを議題といたします。</p> <p>資料を配付しておりますので、事務局から報告願います。</p>
川口学校教育課長	<p>全国学力・学習状況調査の結果について、ご説明いたします。</p> <p>資料1をご覧ください。</p> <p>はじめに、全国学力・学習状況調査は、文部科学省が全国の小学6年生及び中学3年生を対象に、国語と算数・数学の教科に関して、毎年度実施している調査です。なお、昨年度につきましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、調査が実施されなかったことから、今回は2年ぶりに実施された調査となります。</p> <p>1の各教科の平均正答率については、全国、全道、江別市の数値を表にしたものです。</p> <p>2の令和3年度の傾向については、小学校では、江別市の平均正答率が、国語・算数ともに全道・全国平均を上回っています。中学校では、江別市の平均正答率は、国語が全道・全国平均よりもやや低く、数学が全道・全国平均を上回っています。</p> <p>次に、別冊1の1ページをご覧ください。調査結果について、冊子にまとめたものです。</p> <p>Iの調査の概要については、記載のとおりです。</p>

<p>三好市長</p> <p>支部教育委員</p>	<p>次に、Ⅱの結果の概要のうち、2 質問紙調査に関する結果の概要をご覧ください。授業中の私語が少なく、落ち着いていると思う割合は、小学6年生、中学3年生ともに全国平均を大きく上回り、江別市の学校は大変落ち着いた状態にあると言えます。</p> <p>パソコンや電子黒板等を活用して授業をほぼ毎日行った割合は、全国平均を大きく上回り、ICTを活用した授業が積極的に行われています。</p> <p>2 ページをご覧ください。</p> <p>Ⅲの各教科の結果については、2 ページから5 ページに掛けて記載しております。教科ごとに、正答数の分布グラフ、江別市・北海道・全国の平均正答数と平均正答率及び学習指導要領の領域別の設問数と平均正答率の表を記載しております。</p> <p>次に、6 ページをご覧ください。</p> <p>Ⅳの質問紙調査の結果についてですが、1 児童・生徒質問紙は、児童生徒が生活習慣や学習習慣等について回答した結果であり、特徴的なものを記載し、併せて改善に向けた取り組みを四角で囲んだ部分に記載しております。</p> <p>次に、8 ページをご覧ください。</p> <p>中段部分の2 学校質問紙は、学校の教育活動等について学校が回答した結果であり、学力向上等の取り組みの中から特徴的なものを記載し、併せて改善に向けた取り組み等を四角で囲んだ部分に記載しています。なお、11 ページから20 ページは、児童・生徒質問紙と学校質問紙の項目について、グラフを掲載しておりますのでご参照ください。</p> <p>続きまして、21 ページをご覧ください。江別市学校改善支援プランです。</p> <p>上段に、明らかになった課題を記載しており、主なものとしましては、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、授業改善等を継続する必要があるとしております。資料の下段、左側は、課題解決に向けた学校の取り組みであり、右側は、学校に対する江別市教育委員会の支援であります。</p> <p>調査結果を踏まえ、学校をはじめ関係機関や地域と連携しながら、課題解決に向け、取り組んでまいります。</p> <p>以上です。</p> <p>ただいま事務局から報告がありましたが、委員の皆様からご意見等はございませんか。</p> <p>令和3年度全国学力・学習状況調査の調査結果について、資料1と別冊1についてお話ししたいと思います。</p> <p>今ほど事務局から説明がありましたように、小学6年生では、国語・算数ともに全国・全道平均を上回る結果でありました。また、中学3年生では、数学において全国・全道平均を上回る結果でしたが、国語に関しては、子供たちが新型コロナウイルスの影響で、久しぶりに油断したのかなと思っているのですが、何年振りかで全国の平均を0.6%下回っているということでした。少し残念ではありましたが、そのことを含めましてお話ししたいと思います。</p> <p>別冊1の2 ページから、小学校国語の正答数分布グラフが掲載されており、全国平均、全道平均、江別の状況が載っています。小学校の国語については、正答数0から4問というところが全国・全道より下回っており、正答数11問の児童の割合が、かなり多くなっていることが分かります。これは、小学校の算数についても同様な傾向だと言えます。</p> <p>次に、4から5 ページですが、中学校国語・数学の正答数分布グラフについて、どのような形で分布しているのかを私なりに分析してみました。</p> <p>中学校国語について894名の生徒が受験しておりますので、10問正答している生徒は128名前後だと思えます。このグラフで一番感じることは、6、7問正答の生徒たちが、全国平均よりも多くなっておりまして、8、9問正答した生徒たちが、全国平均よりもちょっと少なくなっていることが分かります。この層の生徒たちの正答数が、もう1、2問増えると、すぐに全国・全道平均に追い付けると思えます。</p> <p>数学については、892名の生徒が受験しておりまして、16問正答した生徒が10名、15問正答が42名、14問正答した生徒が59名おり、かなりの人数の生徒たちが高得点で引っ張ってくれているという印象を受けております。</p> <p>次に、質問紙調査の結果について述べさせていただきます。6 ページの(3)自己肯定感の①自分には、よいところがあると思うという設問については、全国平均よりも低い数</p>
---------------------------	---

	<p>字で、児童生徒が自分自身に対し、自信を持てるような努力がもう少し必要なのではと感じております。</p> <p>また7ページの(5)社会に対する興味・関心では、①新聞をほぼ毎日読むという設問で、全国平均よりも高い数字であることから、江別の児童生徒がよく新聞を読んでいることが分かります。②の今住んでいる地域の行事に参加しているやどちらかといえば、参加していると答えた人の数が全国平均よりもちょっと少ないことに心配をしております。③の地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあるという設問に当てはまるやどちらかといえば、当てはまると答えた小学6年生については、全国平均を上回っており、中学3年生については、全国平均よりも少し下回っていることが少し残念な気持ちでございます。</p> <p>8ページの(6)思いやりでは、いじめについての設問がございます。これについては、全国平均も高い結果ですが、江別市に至っては更に上回る結果で、非常にいじめに対して、子供たち自身も高い意識を持っているということを感じております。</p> <p>8ページ下段で2の学校質問紙では、(1)学習規律や(2)家庭学習については全国平均を大幅に上回っており、学校での指導、育成がうまくできていることや家庭での学習も身に付いているのかなと思っており、特に中学3年生では(1)の②学校規律の維持をよく行ったと回答した割合が、100%という結果になっております。江別の児童生徒は落ち着いた様子であることがこの結果からも顕著に表れており、現場の先生方に感謝を申し上げたいと思っております。</p> <p>9ページの(5)全国学力・学習状況調査の活用についても、全国平均を大きく上回っており、分析結果を活用しながら、学習を進めているということで、教育活動に生かされているということはこの数字から感じております。</p> <p>最後に10ページの(7)家庭や地域との連携ですが、小学校も中学校も全国平均を上回っており、家庭や地域の協力があるからこそ、学校での落ち着きがあるなどの全国学力・学習状況調査のこの結果につながる一因なのかなと考えております。特色ある学校づくりにこれからもご協力をお願い申し上げますこの調査票についての私からの意見とさせていただきます。</p>
三好市長	<p>ありがとうございます。そのほか、何かございますか。</p>
須田教育委員	<p>全体的なことは、今、支部委員がおっしゃっていただきましたが、私からも、気になったところをお話させていただきます。</p> <p>今回、中学3年生の国語が、全国平均よりも少し下回ったということは、本当に残念ですが、このコロナ禍の中で、子供たちも先生方もすごく頑張ったと思います。国語は、どの教科にも読む力と言う意味では通じているところがあります。私は、読む力や書く力を伸ばす指導をしていただくことが大切だと思います。</p> <p>その他では、児童生徒質問紙や学校質問紙の中で、二つほど気になりました。</p> <p>一つ目は、(3)自己肯定感ですが、中学生のデータは少し改善してきておりますが、小学生が前回よりも下がっているところです。学校で自己肯定感を持てるような指導をお願いしたいことと、学校でも家庭でも、子供たちの居場所をしっかりと認めてあげることが大事だと思っております。</p> <p>二つ目は、(6)思いやりの項目で、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うという項目が、100%に近づくような指導が大事だと思います。小学生は90%を超えていますが、中学生の86.3%と14%近くの子供たちが、いけないことだと回答していないことが分かります。そのように答えた子供たちが、どんな意見や感想を持っているのかということが気になります。江別市の小・中学生には、いじめはどんな理由があってもいけないという回答が100%に近づくよう指導していただきたいと思っております。</p>
三好市長	<p>ありがとうございました。その他ございますか。よろしいでしょうか。(了)</p> <p>後ほど、教育長からお話しいただきたいと思っておりますが、その前に私が気にしていることをお話させていただきます。</p> <p>それは国語についてなのですが、国語は、全ての教科を理解する上で基礎的な科目と思っています。数学を理解するにしても、数学の設問を読み解くためにも国語力というもの</p>

	<p>が必要だと思えます。今回、中学3年生の成績が、全国・全道平均を下回ったということで、何が問題で、何が課題だったのかについて分析していただき、重点的に対策を講じていただきたいと思います。</p> <p>それから、先ほど須田委員からお話がありましたが、中学生の子供たちが、いじめはどんな理由があってもいけないことだと思おうという回答が、以前は90%を超えていたのに、今回は、令和元年度から8.1%減っています。なぜ、令和3年度に1割近く数字の変化があったのか、何か原因があるのかと思っております。いじめはあってはならないものですから、良くないと全員が思わなくてはいけないものだと思います。その辺りもしっかり分析した上で対応していただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、黒川教育長から、全体を通して今回の分析結果を踏まえたお考えなどについて、ご見解をお聞かせいただきたいと思います。</p> <p>まず、学校教育は人格の完成を含めた分野であります。学力という面で、今年度の全国学力・学習状況調査の結果については、例年に比べて中学3年生の国語が全国平均を少しだけ下回ったことで、そこは真摯に受け止めなければならないと思っております。</p> <p>私たちは、どうしても去年の数値と比べがちなのですが、実は、今回試験を受けている子供たちは、前回試験を受けた子供たちとは別の子供たちであります。そのため、去年の子供たちと比べてどうだったかということよりも、今回受験した一人ひとりの子供たちの学力が、これまでどう伸びてきているかということを見ていきたいと考えているところで</p> <p>実際、小学6年生の時の結果と比べると、中学3年生の結果は大きく伸びております。今回、国語で全国平均を下回った子供たちも同様に、小学校のときよりかなり伸びております。そこは大きく褒めてあげたいところですが、その伸び具合は、子供によって違います。早く伸びる子や時間の掛かる子など、様々なタイプの子がおります。成績が小学校の時より大きく伸びてきていることを褒めながらも、今後、中学3年生の子供たちは、受験などの大きな課題を乗り越えていかなければなりませんので、一人ひとりが自己実現を図っていけるように、学校でサポートしていかなければならないと思っております。</p> <p>これから、Society 5.0と呼ばれる様々な変革がどんどん押し寄せてくる時代を、子供たちは生き抜いていかなければなりません。この変革に対して主体的に向かっていくためには、逃げずに立ち向かっていく力や心を身に付けなければなりませんので、一人ひとりの子供たちが、確かな学力をしっかりと身に付けることは、大変重要と考えます。</p> <p>市長がおっしゃったように、その基盤となる国語、ここをしっかりと身に付けさせるような指導に、一層、力を入れていかなければならないと思えます。さらに個人だけではなく集団で意見を出し合っ分りやすく説明すること、相手の言っている内容を理解し、相談して解決策を考えることなど、集団で解決したり、相談したりすることで得られる気付きも国語の大きな力であると感じております。</p> <p>現在、江別市独自で行っている学習サポート教員や、昨年導入したICT機器、特にタブレット端末等を大いに活用しながら、一層子供たちの学力が伸びるような取り組みを進めてまいりたいと考えております。</p>
<p>黒川教育長</p> <p>三好市長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>今、黒川教育長から全体を通してのコメントをいただきました。</p> <p>江別市は、子育て応援のまち江別でございます。その大きな柱が教育でございます。</p> <p>我々が、教育基盤を整備して、教育現場で働く人たちに活用していただいております。是非、今回の全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた上で、よく分析していただき学力の向上に努めていただければと思っております。</p> <p>どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>以上で、本件を終結いたします。</p> <p>次に、(2)令和4年度教育施策及び予算に関する意見交換についてを議題といたします。</p> <p>去る10月12日、新年度に向けた予算編成方針説明会を開催いたしまして、皆様のお手元にある別冊2を使い、私から新年度予算編成に当たっての職員への指示事項を申し上げたところであります。</p>

	<p>令和4年度は第6次江別市総合計画における10か年計画の9年次目、後期の4年次目を迎えることから、計画期間の終了を見据え、各政策に掲げた取り組みの進捗状況や目標の達成状況について検証を行った上で、もう計画期間も残り2年しかございませんので、必要な予算計上をしてほしいということを私から職員に伝えております。しかし、全体といたしましては、新型コロナウイルス感染症の影響により、厳しい予算編成となることから、既存事務事業の大胆な見直しを行うなどにより、財源を生み出す提案をするようにと職員に指示したところでございます。</p> <p>先般、大きく政治の状況が変わりまして、新たに岸田内閣が誕生しました。昨日11月10日には、第2次岸田内閣が発足したところですが、今後の補正予算の編成について、大まかなものが公表されました。また、12月末には決まるであろう来年度予算案についても情報を集めるとともに、状況を見極め、新しい取り組みには出遅れないよう、活用できそうな国の補助金などは、直ちに江別市の来年度予算に活用するよう話をさせていただきました。</p> <p>本来ですと、国は6月か7月ぐらいまでに次年度予算に係る概算要求があり、その概算要求の方向性を見極めた上で、我々は江別市の来年度の予算を組むのですが、今回は、内閣が変わるという状況にありましたので、こうした国の動きなどを見極めた上で対応していただきたいという話をしております。</p> <p>そのほか、予算編成方針の具体的な内容については、先日の定例教育委員会で教育部長から説明があったと聞いておりますが、本日は、来年度の教育施策及び予算に関する意見交換ということで、その点も踏まえて、皆様と議論を深めたいと思います。</p> <p>議題(2)はこの別冊の他に資料も配付しておりますので、資料に関して事務局から説明願います。</p>
川口学校教育課長	<p>小学校1、2年生の学習者用タブレット端末導入についてご説明いたします。資料2をご覧ください。</p> <p>はじめに、1のICT機器等の整備状況については、記載のとおりです。学習者用タブレット端末7学年分の内訳は、小学4年生以上を1人1台とし、小学1年生から小学3年生には、3人に1台を整備したものです。この時点で、残り2学年分のタブレット端末整備に関しては、具体的な活用方法を整理した上で整備することとしておりました。</p> <p>次に、2の端末導入に関する各学校の意見ですが、早期に2学年分のタブレット端末整備を望む声が多い状況にあります。主な意見としては、早い段階でキーボードやタイピングの練習をすることで、小学3年生になってからの学習をスムーズに進めることができるなどの意見があります。</p> <p>次に、3の小学校1、2年生のタブレット端末整備における効果ですが、児童側の効果としては、協働学習が容易に可能となることから、児童がそれぞれの意見を受けとり、交流して、自ら発信できる力が身に付くなどがあります。また、教員側の効果としては、ICTを活用した授業を実践できることで、教員全体のICTスキルの向上につながることで期待できます。</p> <p>このようなことから、教育委員会としましては、残り2学年のタブレット端末を早期に整備したいと考えております。</p> <p>以上です。</p>
三好市長	<p>ただいま事務局から資料について説明がありました。来年度の予算につきまして、皆様からご発言をいただきたいと思っております。いかがでしょうか。</p>
林委員	<p>今、事務局から残り2学年分のタブレット端末の導入についての話がありましたが、私も、基本的に江別市の財政が厳しいところがあるのは理解いたしますが、子育て応援のまち江別の特色にもなりますので、何とか予算をやりくりしながら、残り2学年分のタブレット端末の導入をしていただければと思います。</p> <p>先週、学校の教育現場の視察に行ってきました。そのときに、小学2年生の授業を視察させていただきましたが、ちょうどタブレット端末を活用した授業を行っていたところで、そのタブレット端末が小学1、2年生は、1人1台ずつないものですから、上級生から借りて皆で使用している状況でした。しかし借りているにもかかわらず、小学2年生で</p>

	<p>も、かなり操作に慣れている子供もいて、とてもスムーズに入力を行っていたことに驚きました。なるべく、早くからタブレット端末に慣れることで、正確な操作ができるようになり、また授業の理解度が増すので、子供たちにとって有益だと感じました。</p> <p>また、学校でタブレット端末の使用頻度についてのアンケート結果を見せていただきましたが、一部で使用頻度が多くない学年や先生もいるという内容でした。全学年にタブレット端末を整備することで、使用頻度の偏りも解決できますし、先生方も操作に慣れることはもちろん、使用頻度が増えることで、データ蓄積を活用するなどのスキルアップにもつながると思います。</p> <p>今はコロナの感染状況が落ち着いていますが、また感染が拡大してリモートでの授業にならざるを得ないようなケースにならないとも限りませんので、そういう事態になることを踏まえて整備をしていただけたらと思います。</p> <p>江別市は、早々と電子黒板を全学校に導入した経緯もございますので、ここは何とか市長にご英断いただいて、小学1、2年生にもタブレット端末を入れてあげたいという思いでございます。</p>
三好市長	<p>ありがとうございました。そのほかございますか。よろしいでしょうか。(了)</p> <p>黒川教育長いかがでしょうか。</p>
黒川教育長	<p>私も先ほど、林委員のおっしゃっていたご意見と同様です。</p> <p>小学2年生が、タブレット端末を借りるのに、何回も教室間を移動して貸し借りをしながら使っているという環境下で、まず、先生方がよくここまで指導できたという思いがあります。同時に、もし、子供たちの教室に、タブレット端末が配備されていたら、どれだけでもっとスムーズにタブレット端末を活用できたかもしれないことを考えると、何とか小学1年生から、タブレット端末を子供たちの教室に配備できるようにしてあげたいという思いを改めて感じているところでございます。</p> <p>また、教員のタブレット端末を活用した研修が、これから非常に重要であるということ強く認識しております。しかし、どうしても授業でタブレット端末をあまり使いたくないと思っている教員がタブレット端末に関する研修を受けたときに、力の入り具合で差が出てしまうことは事実です。</p> <p>実際には、実践する場がある先生と実践する場がない先生がいますので、やはり日々の授業で、タブレット端末を使用するところを想像しながら、全体で研修の内容を共有して皆が活用できるようにしようとか、子供たちがここまでできるようにしようということを学校の中でも一層取り組んでいけるように、小学1年生からのタブレット端末の配備について、お願いさせていただきたいという思いを強くしているところでございます。</p> <p>どうぞよろしく願い申し上げます。</p>
三好市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>予算編成はこれからというところでございますので、今の時点で明確に予算が付くかどうかという話ではできませんが、今お話しいただいた内容を含めて検討してまいりたいと思っております。</p> <p>私も、このデジタル化については、子供たちが活用できるかどうかということもありますが、どうにかして学校の先生方の時間づくりに活用してほしいという気持ちがあります。</p> <p>集まって顔を合わせて会議をすることも重要ですが、教育現場では先生方は授業を持っていたり、研究したりしておりますので、一齊に集まるということ自体にかなり時間が必要になってきます。もちろん、必要な場合は集まっていますが、これだけデジタル化が進みましたので、是非、このタブレット端末などを活用し、学校内の会議や学校間の会議も含めましてリモート化を進めていただいて、時間の有効活用に充てていただきたい。そのことが子供たちのためにもなりますし、先生のためにもなると思います。</p> <p>最近の全国市長会の会議は、ほとんどリモート会議です。今まで、東京へ出張して会議に参加しておりましたけれども、ここ数回は、ほとんどリモートでの会議で国からの話を聞いております。教育現場でも是非、この機会にリモートの活用を検討していただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p>

佐藤学校教育支援室長	<p>以上で、本件を終結いたします。 次に、(3) 学校における新型コロナウイルス感染症対策についてを議題といたします。 資料が配付されておりますので、事務局から説明、報告願います。</p> <p>学校における新型コロナウイルス感染症対策について、ご説明いたします。 資料3とワクチン周知リーフレットをご覧ください。 市内小中学校では、手洗いやマスク着用など基本的な対策を徹底してきたほか、特に学校に持ち込まない、学校内で感染を拡大させないことが重要との考えの下、市独自の対策も実施してきております。 資料には、市が実施した三つの対策について、それぞれの概要、効果、今後の課題を記載しております。 1の教職員のワクチン集団接種においては、学校運営に影響が出ないよう、学校ごとの接種シフトを組めたことなど大きな効果があったところです。一方、今後の課題として、国では3回目の接種を居住市町村のみとする情報もあることから、他市町村に居住する教員等への接種など、接種の日程によっては、学校運営への影響を懸念しているところです。 そのほか、2の全道・全国大会参加生徒への抗原検査、3のワクチン周知リーフレットにつきましても、記載のとおり相応の効果や課題があるものと考えております。 なお、先ほど、市長から冒頭でもお話がありましたが、ワクチン周知リーフレットにつきましても、保護者や学校からも好評を得ておりまして、資料3には、記載がございませんが、11月5日時点で中学生のワクチン接種状況は、全体で66.2%、受験生にあたる中学3年生に至りましては、70%を超える生徒が1回目の接種を終えている状況でございます。教育委員会といたしましては、今後におきましても、必要に応じた対策を実施して、感染拡大防止に努めてまいりたいと考えております。 資料の説明は以上です。</p>
三好市長	<p>ただいま事務局から、学校における新型コロナウイルス感染症対策について説明、報告がありましたが、委員の皆様からご意見・ご質問等はございませんか。</p>
橋本教育委員	<p>私から3回目のワクチン接種における職域接種の件について、少しお話しさせていただきたいと思っております。 私も教育業務に携わる立場から、1、2回目のワクチン接種は、職域接種をさせていただいた。職域接種での1、2回目のワクチン接種は、江別市民以外の方でも同じ職場の方であればワクチン接種の申込みができて、一斉に受けることができたことは安心でした。 学校や幼児・保育施設は大きな集団ですが、大きなクラスターも発生せず、ここまでやってこられたのは、ご家庭でのご協力や先生や職場の努力があったことももちろんのことですが、ワクチンのおかげもあったのかなということ、大変感謝しております。 一般の方の3回目のワクチン接種については、最近、感染者数が落ち着いていることや副反応が出た方も多かったので、社会的気運が盛り上がっているようには感じていませんが、教職員の現場では、子供たちを守りたいということで、今後の3回目のワクチン接種について望む声が多くあるように思います。 新型コロナウイルスにかかりにくくなり、人にうつす可能性を減らすということであれば、教育現場に携わる多くの方が希望すると思えますし、職員のシフト等を調整する上で職域接種の仕組みは大変助かりますので、今後の3回目のワクチン接種につきましても、1、2回目と同様な形で実施できると教育現場としては助かると考えています。</p>
三好市長	<p>そのほかいかがでしょうか。よろしいでしょうか。(了) 3回目のワクチン接種に関連して、先日の全道市長会において、北海道知事に3回目のワクチン接種が集団接種でできるよう国へ要請してほしいとお願いしております。また、全道市長会の場でも職域接種がすばらしい仕組みだったとの意見がありました。 我々が一番気にしていることは、集団接種を実施したところでは8か月後にワクチン接種と言われると、同じタイミングでピークが一気にやってくるので、その観点からも集団接種の中の職域接種と大学接種について要望しております。</p>

<p>清水教育支援課長</p>	<p>昨日、岸田総理が記者会見で発表したときには、職域接種を認めるという話になっておりましたが、前回と同様の形になるのか、はたまた別な形になるのかは、現時点では分かりません。こうした運営方法などについては、12月に通知されるということになっておりますので、それ以降、対応したいと考えております。私といたしましても、もし同様の形での実施となれば、前回、職域接種を行いました江別工業団地協同組合と北海道情報大学に職域接種や大学接種をお願いしたいと思っております。</p> <p>橋本委員からもお話のありました職場ごとの接種というのは、私も有効だったと思います。学校や幼稚園、保育園の中でシフトを組んで、授業や行事等のスケジュールに影響のない形で接種ができるわけですので、こうした対応を継続できるよう努力したいと思っております。</p> <p>こちらについては、これにて終結いたします。</p> <p>次に、(4)江別市におけるいじめ・不登校の状況についてを議題といたします。</p> <p>資料を配付しておりますので、事務局から説明願います。</p>
<p>三好市長</p>	<p>それでは、市立小中学校におけるいじめ・不登校の状況についてご説明いたします。資料4をご覧ください。</p> <p>はじめにいじめの状況をご説明いたします。</p> <p>1の学年別いじめ認知件数についてであります。学校が認知した小中学校別、学年別のいじめの件数で、各年度末における状況の3年間の推移になります。</p> <p>次に、2のいじめの解消状況についてご説明いたします。</p> <p>まず、いじめが解消された状態とは、被害児童生徒に対する心理的・物理的な影響を与える行為の止んでいる状態が、少なくとも3か月継続していること、及び被害児童生徒が、いじめの行為により心身の苦痛を感じていないと認められることと定義されており、本人及び保護者へ面談等を行うことによって確認しております。</p> <p>令和2年度末時点で、いじめの解消に向けて取り組み中の6件につきましては、令和3年度に入ってから、学校に対して追跡調査を行い、いずれも、いじめが解消されていることを確認しております。</p> <p>続きまして、不登校の状況についてご説明いたします。</p> <p>はじめに、不登校児童生徒とは、年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたものであります。</p> <p>3の学年別不登校児童生徒数及び4の不登校児童生徒への指導結果状況につきましては、表に記載のとおり、各年度末における状況の3年間の推移になります。</p> <p>以上です。</p>
<p>須田委員</p>	<p>ただいま事務局から説明いただきましたが、委員の皆様からご質問・ご意見等はございませんか。</p>
<p>須田委員</p>	<p>江別市におけるいじめの件数について、少々増えているようですが、各学校でいじめの解消に向けての取り組みがなされ、ほとんどが解消されているということは大変良いことだと思っております。いじめの件数がこれだけ増えている原因については、児童生徒に対し、どんなにささいないじめでさえ、丁寧にアンケートを取っているため、件数が増えているものと考えます。</p> <p>江別市では、これまでにいじめ防止対策推進法に定める重大事態は発生していませんが、もしもの時に備えて、江別市も第三者委員会がすぐに設置される体制が整っていることが確認できました。私としては、いじめが重大事態になる前に、解決していただけるようこれからも対応いただきたいと思います。</p> <p>先日、テレビで旭川市の事例が報道されておりました。報道を見ると、とてもショッキングな内容で、もっと当事者に寄り添い、保護者にも寄り添う中で、あのようなことを、いじめであるとなぜ言えないのかと、憤りを感じます。亡くなったお子さんの保護者の悲しみや苦しみは、計り知れないと思います。このような重大な事態になる前に、もう少し、何かできなかったのかとつくづく思いますし、学校、保護者、教育委員会の連携をもっと深めなければいけないと思います。いじめられた子供や保護者の意見をしっかりと聞き、寄り添ってあげなければいけないと思います。</p>

	<p>報道されていた先生の言葉の中にも、ひどくショックを受けた言葉がありました。このようなことがないように、江別市では児童生徒質問紙においても、いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うという設問について、100%の子供たちがいけないことだと答えられるようになってほしいと願っています。</p>
三好市長	<p>ありがとうございます。そのほか、何かございますか。</p>
橋本委員	<p>不登校の状況について報告がありましたので、そちらに関連してお話しします。 不登校の児童生徒数は、コロナの影響もあるかもしれませんが、報道等では言われているように全国的に年々増えております。江別市は、適応指導教室すぽっとケアを平成16年から週1回の日程で開始しており、現在は、週4回の10時から12時で行っておりますが、他市町村と比べると決して充実している内容ではないと思われま。今後もすぽっとケアを拡充する努力は必要だと思います。 また一方で、不登校児童生徒の中には、すぽっとケアに来ることができない児童生徒が多数います。もちろん、平成28年に文部科学省が通知しているように、不登校は問題行動ではなく学校に行くことが全てではないのですが、その子供たちにとって、家庭以外に心が向くことはとても大事なことだと思います。 幸いなことに江別市では、小学3年生以上にタブレット端末が整備されていることから、不登校児童生徒の対応に活用する動きが、少しずつ増えてきております。勉強についていけないだろうか、クラスの様子分からないなどの不安を感じる子供もいると思いますが、ICTを活用した教育が、子供たちの気持ちと学校等とつなぐ役割の一部を担っているといると思いますので、より一層のICTの活用を期待しております。</p>
三好市長	<p>ありがとうございます。そのほかございますか。</p>
黒川教育長	<p>いじめのことですが、先ほどの全国学力・学習状況調査でも話題になった、いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うという回答の割合を、もっと高めていこうということは、江別市においても少し前から、かなり力を入れて取り組んできております。ただ、今回、この設問への回答の割合が若干下がったことについて、各学校の先生から意見を聞いてみたところ、例えば、いじわるをされたら、家ではお父さんもお母さんもやり返しなさいと言うと答える児童生徒がかなりいるということでした。 それが、やられっぱなしでいいということではなくて、いじわるをされたら、それは嫌なことだからやめると伝える必要はあるけれども、やり返して良いということではないと言っているのだと思うよという指導を各学校で行っています。しかし、児童生徒の保護者は、やられたらやり返しなさいと言っているというところが、先生方の悩みとなっていると確認できているところです。 もう一つは、大人の社会においても、SNSである人をものすごく非難して自殺が起きているという報道もあり、それを聞いた中学生等の中からは、大人になってもいじめがあるのではないかと声があると先生方から聞いております。 しかし、それを肯定するのではなく、一人ひとりにとっていじめのない学校、社会、世の中というものが、いかに大切かということをお子供たちに感じさせていくような指導が必要だと思っております。先ほど、須田委員や三好市長がおっしゃったように、いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思うと、心の底から感じられるような指導をしていかなければならないと感じております。 それから、不登校の児童生徒は全国的に増えてきており、石狩管内はもとより、江別市も同様に増えている状況にあります。何とか適応指導教室等をはじめ、不登校気味の児童生徒を含めてサポートしようと頑張っているところではありますが、なかなか適応指導教室にさえ来られない子供たちも半数近くいます。その子供たちをどう支援していくかを含めて、一層、きめ細やかな対応を進めていかなければならないと考えております。</p>
三好市長	<p>ありがとうございました。そのほかございますか。 よろしいでしょうか。(了) いじめの認知件数は増えているとの報告ですけれども、皆様方の努力もございまして市</p>

	<p>内では重大事態は発生しておらず、未然に防止できております。</p> <p>先ほど、黒川教育長がおっしゃっていたいじめの認識の問題も含めて、いじめについても一度きちんと整理して、どんな理由があってもいけないという認識や、仮にいじめが起きたとしてもすぐに対応して、重大事案にしないという努力が必要だと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>また、不登校については、コロナの影響が大きいとは思いますが、全国的に増加傾向であるとのこと。いかに不登校の子供たちが、以前と同じように学校のクラスの友達と、学んだり、楽しんだりしてもらえるように導くことが大事だと思っております。不登校そのものを否定したり、反対に推奨したりするわけではございませんが、タブレット端末を活用して環境を整えれば整えるほど、その環境に滞留してしまうことも少し心配しております。その滞留したところから、学校へ向けていく仕組みづくりも重要だと考えております。</p> <p>これは教育委員会だけの問題ではなくて、いじめ防止対策や不登校児童生徒の支援のために、私ども関連機関が連携しながら対策を進めていくべき問題だと思っておりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>次に、(5) ICT活用に向けた学習機会の確保についてを議題といたします。資料を配付しておりますので、事務局から説明願います。</p>
山崎総務課長	<p>資料5をご覧ください。</p> <p>1のデジタル化を取り巻く現状についてですが、本年9月にデジタル庁が創設され、行政手続きのオンライン化など、社会全体のデジタル化が進んでいます。このような中、デジタル格差の解消が国の重要な政策課題となっています。</p> <p>江別市では、誰一人取り残さない、人に優しいデジタル化を目指しながら、市民の利便性の向上と行政事務の効率化のため、行政手続きのデジタル化に取り組む考えです。</p> <p>これらに呼応し、教育委員会では、市民全体の情報リテラシーを高めるため、デジタル機器に不慣れな高齢者等を対象とした、ICT活用に向けた学習の機会を設けています。</p> <p>2のICT活用に向けた教育委員会の対応についてですが、教育委員会が試行的に実施している事業を掲載しております。</p> <p>生涯学習課では、市内4大学と連携して実施しているふるさと江別塾について、主な受講者である高齢者に、ICTを活用した受講体験をしてもらうため、受講登録から講座視聴、アンケートまでインターネットで完結させる取り組みを実施中です。</p> <p>また、65歳以上の市民を対象とした蒼樹大学では、高齢者の不安解消に向けて、身近なICT機器であるスマートフォンについて学習する機会を提供するため、ソフトバンク株式会社と連携した講座を、12月に実施する予定です。</p> <p>情報図書館では、アートな本展という展示会のイベントのひとつとして、スマホで本の予約をしてみようを10月23日に実施しました。同図書館では、本の貸出し予約にICTを活用して、高齢者を含む市民の利便性向上を図っており、イベントでは、事前登録から予約方法まで、実際にスマートフォンの画面を見ながら、参加者に説明を行いました。</p> <p>以上です。</p>
三好市長	<p>ただいま事務局から、ICT活用に向けた学習機会の確保についての説明がありました。委員の皆様からご意見等はございませんか。</p>
林教育委員	<p>事務局からご説明をいただいたとおり、高齢者や情報弱者と言う言葉が悪いかもしれませんが、そのような方のために、江別市としてICT活用に向けた学習機会の確保の体制を取ることは、重要なことだと認識しております。</p> <p>市民の情報リテラシーが向上すると、様々なデジタル化の活用に結び付きますので、江別市としても行政事務の効率化の面でコストの削減につながることから、非常に重要なことだと考えます。ただ、そのために専属の職員を配置することは、なかなか難しい状況だと思っておりますので、できれば、江別市の通常業務の中で、そういった体制を構築するのが一番いいのではないかと思います。</p> <p>例えば、各種申請書等をダウンロードできるようになっていると思っておりますが、そのよう</p>

な情報を窓口で市民に周知する。また、情報図書館でしたらICTを活用して図書の予約ができる状況ですが、そのやり方の講座を開くだけではなくて、情報図書館の窓口でスマホを使った本の予約方法について、いつでも説明できる体制づくりなど、そのような機会を広く提供しながら、少しずつ取り組みを拡張していくことも必要だと思います。

もちろん、今行っている主な講座も需要があると思いますので、継続していただきたいと思います。どちらかというと、先生がいて、そこに集まって座学をするよりは、体験型だったり、大学生や高校生と触れ合いながら学べたりとか、そういったことを進めながら情報リテラシーの向上に努めていくのがよろしいのかなと思います。

少し余談になりますが、我が家では、最近、テレビを見る時間が減って、ユーチューブを代表とする動画共有サービスを見る機会が多いです。ただ高齢者の方は、きっとユーチューブ等を見る機会が少ないと思われるので、テレビだけではなく、このような動画共有サービスの存在を教えてあげたりすると、自分に興味のあるものを選択して見ることができ、楽しいと思います。例えば、そういう講座を開くなど、ちょっとしたきっかけでまた色々知りたくなるのかなと思いますので、このような人の探求心に訴えかけながら行うと楽しく進められるのかなと感じます。

三好市長

ありがとうございます。そのほかございますか。

よろしいでしょうか（了）

今年の4月に、新型コロナウイルスのワクチン予約を電話とインターネットに限定したのは、新型コロナウイルスの性質上、申込者と直接対面で会話しながら申し込むのではなく、対面する必要のない電話かインターネット申込みにしてほしいというのが国の方針でありました。

幸いにも江別市は、いち早くワクチン配付が決まりましたが、数にして500名分のワクチンについて予約の受付をすると大変なことになりますので、最初の500名分は高齢者福祉施設の入所者に接種することといたしました。

次に届いたワクチンについても、同様に高齢者福祉施設の入所者に接種しようとしたしましたが、国からは、国の方針に基づいた一般の方への予約や接種をしていただけないと困ると言われました。それは、接種体制の初期モデルとして、様々な課題を検証して報告してほしいという条件でした。

予約を受けて分かったことは、ほとんどの高齢者が、インターネットでの申込みができなかったことや、電話は、当初3分から5分で一つの予約が終わる想定でしたが、15分から20分近く掛かりましたので、待てども電話が繋がらないという問題もありました。その結果、高齢者の方たちも、時間の制約がなく予約のできるインターネットの必要性について、随分、認識されてきております。

新しいことを習得することに意欲を持てる方と意欲を持ってない方がいらっしゃいますので、意欲を持っている方にICTの活用を学んでいただく機会を提供する仕組みは必要だと思います。

そのほかには、電波通信の環境が課題であると考えています。

自宅にWi-Fi環境が整っていたり、自由にインターネットができる環境が整っていたりしていれば問題はないのですが、電波通信の環境と機器の問題の両方があるって、その両方をクリアしなければ、なかなか学ぶこともできないし、使うこともできません。そのため、学びの環境を整える前に、機器の環境や電波通信の環境を整備していかなければならないのかなと思います。

もう一つは、林委員からお話がありましたが、2025年までに行政のデジタル化を進めるという方針があります。以前まで、システム標準化の対象となる17業務について整備しましょうということで準備をしてきましたが、この間の話では、17業務から3業務増えて20業務を検討することとされました。

例えば、住民票や印鑑登録事務といったものや、国民健康保険や後期高齢者医療などの保険業務に関連する申込みなども対応することとなります。その環境整備を2025年までに行うとありますので、当然、端末機を含めた対応や環境を整備していかなければなりません。

行政のデジタル化の整備と併せて市民の方にもデジタル化の対応ができるように準備していかなければなりませんので、市民に対するICT活用に向けた研修会を大々的に行

	<p>っていかなければならないと考えております。まだ、デジタル化の方針と具体的な方策が出ておりませんので、その対応を待って進めて行きたいと思っております。</p> <p>このことは、生涯学習のような分野において、一部教育委員会に検討をお願いすることになると思いますが、全体としては、全庁を挙げてどういう対応をしていくのか、これは一つの仕組みを作らなければならないと思っております。</p> <p>また、専門の職員も必要だろうと考えておりますが、市の職員が専門職としてやるべきか、それとも民間業者をお願いするのも考えていかなければならないと思っております。</p> <p>いずれにいたしましても、市民生活上のICT活用に向けた対応について、教育委員会も教育委員会以外の部署におきましても非常に重要な課題でございますので、各部署が連携しながら進めていきたいと考えております。</p> <p>よろしく願いいたします。</p> <p>これで、予定していた5つの議題は、全て終了いたしました。</p> <p>次に、3その他についてですが、前回の総合教育会議で取り上げた通学路安全プログラムに基づく合同点検、この結果について資料を準備していただいたので、事務局から報告願います。</p>
清水教育支援課長	<p>江別市通学路安全プログラムに基づく合同点検結果についてご説明いたします。</p> <p>資料6をご覧ください。</p> <p>まず1の点検内容につきましては、対象地区は、市内全地区であります。</p> <p>通常は、江別、野幌、大麻の3地区のうち、毎年順番に1地区を重点地区として点検を実施しておりますが、6月に千葉県で発生した児童5人の死傷事故を踏まえ、全ての地区を対象としたものであります。点検実施者、点検箇所、点検期間につきましては、資料に記載のとおりです。</p> <p>次に2の点検結果（対策内容等）につきましては、道路整備の実施や、注意喚起看板、ストップマーク等の設置、警ら活動、取締等の強化など、表に記載のとおり、128箇所の点検箇所全てについて、いずれかの対策を実施又は実施する予定となっております。</p> <p>次に3の結果の公表等につきましては、点検結果を北海道教育委員会に報告するとともに、市の公式ホームページにて公表することとしております。</p> <p>なお、いずみ野小学校区において信号機設置の要望があった箇所に、今般、信号機が設置されることになりましたので、ここでご報告させていただきます。</p> <p>以上です。</p>
三好市長	<p>ただいま事務局から報告がありましたが、委員の皆様からご意見等はございませんか。</p> <p>よろしいですか。（了）</p> <p>なければ、私から伺いますが、いずみ野小学校区の信号機というのは、以前から要望していたところでしょうか。</p>
清水教育支援課長	<p>場所は、新興住宅地のところで、令和2年度に信号機の設置を地域として要望していたところです。</p>
三好市長	<p>早い設置で良かったです。</p> <p>それでは、本日の総合教育会議の予定した議事は、全て終了しました。</p> <p>次回以降の会議は、また日程調整をしながら進めてまいりたいと思っておりますが、今のところは、緊急で協議を要する事案がない限り、新年度の開催を考えております。その際は、事務局を通じてご連絡をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>以上をもちまして、本日の江別市総合教育会議を閉会いたします。</p> <p>熱心なご議論、ありがとうございました。</p>